

館長のガラストーク

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

「静」と「動」—県内ガラス作家5人展—の終了と新しい企画展

県内の5人のガラス作家によるグループ展は12月5日で終了します。今回はこれまでご紹介できなかった作品を取り上げてみます。

花岡さんの「Kasane ボウル」は、日本家屋の連子格子にヒントを得た“RENのシリーズ”の一つです。濃紺の地から浮き出た青のスリットがとても印象的な作品です。

野上真理子さんの「雪の妖精」はバーナーワークで作られています。大輪の花の上に白い妖精と透明ガラスの雪の結晶が載っています。全体がバーナーの技を駆使した繊細な仕上がりになっています。

三垣さんは「レース紋様水差」の蓋の部分に、古典的なレース模様とは異なる独自の「レースドローイング」の技法を使って、独創的で繊細な模様を生み出しました。

平井睦美さんの「Compote II」は、サンドブラストの技法で少し深めに彫られた模様がウランガラスの素材特性をうまく引き出し、紫外線照明の下で幻想的な輝きを放っています。

三浦侑子さんは「祈りの器I-IV」で、弥生式土器のような素地の表面をサンドブラストで艶消しにし、微細な光の散乱を生み出しています。それが素朴な形態に柔らかい輪郭と触感を与えています。

この展覧会は12月5日で終了し、12月7日から今年新しく加わった収蔵品を中心に「ひかりのかたち展 2016」が始まります。こちらも是非ご覧ください。



花岡 央
「Kasane ボウル」



野上 真理子
「雪の妖精」



平井 睦美
「Compote II」



三浦 侑子
「祈りの器 I-IV」



三垣 祥太郎
「レース紋様水差」

〈展覧会情報〉平成28年度冬期収蔵作品展 ひかりのかたち展 2016

会期：平成28年12月7日(水)～平成29年4月10日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

町道井坂細田線奥津橋の中型車以上迂回についてのお願い

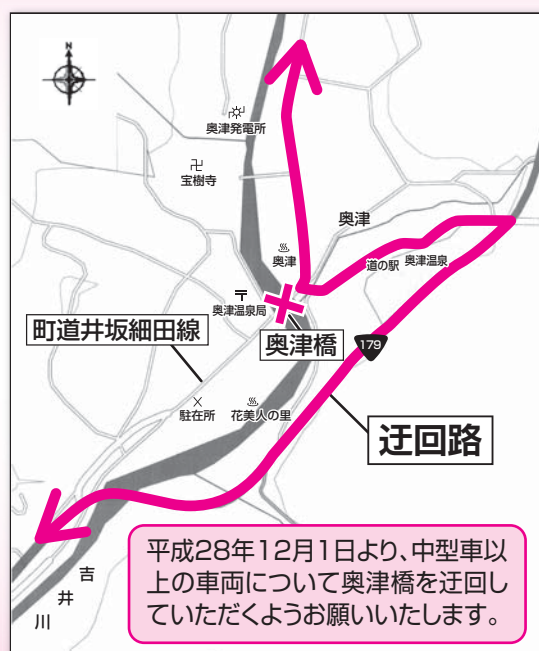
平成28年度において橋梁長寿命化事業として奥津橋の点検を行ったところ、老朽化による損傷が見つかりました。**平成28年12月1日より、通行の安全を確保するため中型車以上の車両について奥津橋を迂回**していただくようお願いいたします。

皆様には大変ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いいたします。

1. 場 所 鏡野町奥津川西 261 番地先
町道井坂細田線 奥津橋
2. 期 間 **平成28年12月1日～当分の間**
3. 迂回対象車 **中型車以上** (4tトラック、マイクロバス、車両総重量5,000kg、最大積載量3,000kg 以上の車両)

お問い合わせ先

建設課 電話 (0868) 54-2989 (直通)



平成28年12月1日より、中型車以上の車両について奥津橋を迂回していただくようお願いいたします。